はじめに

ウクライナからの避難者に対して日本語を教えるボランティアの方々がいると聞きました。具体的な教え方についての本は数多くありますが、ウクライナの人に日本語を教えた経験を踏まえて、これから日本語を教え始めるボランティアの方のためになにか役に立ちそうな情報を共有したいと思い、役に立ちそうなことをまとめてみました。皆さんのボランティア活動の助けになればとねがいます。

一般的なウクライナの家庭では、ロシア語（東部や南部ウクライナ）やウクライナ語（西部ウクライナ）が話されています（※１）。この二つの言語は、日本語とは全くと言っていいほど違いますから、ウクライナの人にとっては、日本語は本当に習得が難しい言葉です。米国の外交官の外国語の訓練をしている機関（Foreign service institute）によると、例えば、英語の母語話者にとって、日本語は最も難しい言語のひとつとされており、外国語学習に優れている人でも 2200 時間以上の時間をかけなければ、習得は難しいとされています。これは、単純に、毎日３時間休まずに勉強したとしても、習得に丸２年間はかかるという計算になります。ところが、イタリア語やスペイン語の場合、600 時間程度で習得が可能ということですから、日本語の習得にいかに時間が必要か分かると思います。ですから、ウクライナの人が日本語を学ぶ場合、上達がゆっくりでも、いらいらしたり、あきらめたりすることなく、多少の間違いなど気にせずに、気長に楽しみながら、教えてあげるといいと思います。

日本に避難することになったウクライナの人たちには、まず生活に必要な日本語（サバイバル日本語）を教える必要があります。日本語を教えることになったボランティアのみなさんがまず初めにすることは、教科書選びだと思います。書店に行くと、実に様々な日本語の教科書があり、驚かれるだろうと思います。例えば、資格試験のための日本語の教科書、ビジネスマンのための日本語の教科書など、学習目的に応じて数多くの教科書や参考書、問題集が出ています。どれも良いと思いますが、最近、国際交流基金が開発した『いろどり』という教科書は、日本での生活者が対象になっていますから、日本で生活するための日本語を効率よく学べると思いますので、検討してみるといいと思います。

『いろどり』の特徴：https://youtu.be/XQu9CunPb7M
『いろどり』ダウンロード：https://www.irodori.jpf.go.jp/index.html
『いろどり』の教え方１：https://youtu.be/GL9mCFgaAGM
『いろどり』の教え方２：https://youtu.be/-DhQjZdntrY

※１：多くのウクライナの人はロシア語とウクライナ語のバイリンガルです。ウクライナ語で出版されている日本語関係の出版物は非常に少ないです。必要があれば、ロシア語で対応しても失礼ではありません。ただ、比較的安全なウクライナ西部の出身者にはロシア語が全くできない人もいるので気をつけてください。

Q：日本語をおしえる頻度は？

A：教科書が決まったら、どのぐらいの頻度で教えるか決めます。毎日会って、教えることができればいいですが、そう頻繁には会えない場合もあると思います。初めのうちは、平日の夜一回と週末一回というように、週に数回会って、日本語を教えるといいのではないでしょうか。ボランティアのみなさんがいない日でも、学習者が家でひとりで勉強が出来るように、宿題を出す、学習アプリ（※２）を教えるといいと思います。また、机の上の勉強だけではなく、散歩をしながら看板を読んでみる、スーパーの商品を調べてみる、街の日本の人達の様子を観察することなども、いい気分転換になるでしょうし、日本文化に触れる機会にもなると思います。

※２：ひらがな・カタカナのアプリに加え、学習を助ける素材がたくさんあります。
まるごとｅラーニング: https://www.marugoto.org/e-learning/

Q：授業はどのように進めたらいいでしょうか。

A：どの教科書にも、巻頭に教科書の特徴や使い方についての説明があると思います。よく読んで、それに従って教えるようにしましょう。教師用の指導書がある教科書もあります。私がウクライナの学習者に日本語を教えていた時に心がけていたのは、教師が一方的に文法や語彙の説明するのではなく、なるべく多くの時間を練習（積極的に日本語を聞いて、話すこと）に使うことです。文法の説明は教科書にあるので、宿題にして、読んできてもらいました。語彙は目を通してきてもらいました。授業でパターン練習や会話練習をする際は、文字を見ないでスムーズに出来るまで、繰り返し練習するようにしましょう。完璧を求めなくても大丈夫です。こうして一生懸命練習しても、忘れることも多いので、定期的に復習の時間を設けるのもいいでしょう。要は、教えっぱなし、勉強しっぱなしにしないことです。

また、生活が安定しないうちは、日本に来て、不安を感じたり、生活面で困っていることがあるかもしれません。特に、ウクライナの女性は感情が豊かで涙もろいところがあります。そんな雰囲気を感じた時は、授業の前後に時間を取って、話を聞いてあげましょう。

＜よくある授業の流れ＞

⓪　前回の復習（会話など）、小テスト（語彙や文法）、読み練習（かな・漢字）
①（もしあれば）（その課の一番重要な）会話（ビデオ）／Cando（※３）の確認
②　語彙の確認・練習（絵カードなどを見せて、確認・練習）
③　文法・文型の確認（長々と文法説明を読んだりはしない）
④　③のパターン練習（初めは文字を見ながらでも、徐々に文字から目を離して）
⑤　会話練習（完璧をもとめない。ただし、必要なら発音や文法の間違いを指摘する）
⑥（もしあれば）別の③④⑤のセット
⑦　①の会話ビデオの再視聴／Cando の再確認

※３：Cando（キャンドゥー）：その課を勉強するとなにができるようになるのか記したもの。会話ビデオ（あれば）などに具体的に示されていることが多い。
※４：教科書には、テキストにローマ字が付いているものがあります。はじめは、補助的なものとして便利ですが、いつまでもローマ字に頼る癖がつくと、日本語表記（仮名・漢字）が覚えられません。
※５：入門や初級のレベルでは、特別に辞書を使うことはないです。課の新出語の意味は、教科書に載っています。また、巻末にも全ての語彙がまとまっていることが多いです。スマホがあれば、グーグル等の翻訳機能やネット辞書で十分に生活に必要な言葉を調べることができると思います。

Q：文字はどのように教えたらいいですか。
A：会話の授業が始まったら、同時並行で文字の勉強も始めます。授業一回につき 10 個程度、あ行から順番に教えて、宿題にしてどんどん覚えてもらいましょう。自宅学習用に、仮名を学習するスマホのアプリ（※６）がたくさんあるので、積極的に使うようすすめましょう。こうして学習習慣が身につくことが、外国語学習の上達には重要です。仮名を覚えたら、授業中に「かるた」をするのも楽しいです。

※６：Hiragana/katakana memory hint　https://www.marugoto.org/e-learning/

＜書きについて＞
文字を書くことで強い達成感が得られますが、まずは文字の識別と読みができることが大切です。教師が言った言葉を指でさしてもらったり、文字カードを見せて正しく言えるかなどして、さっと確認しましょう。あまりしつこくならないようにしましょう。「あ」と「お」、「め」と「ぬ」など、形が似ているものは難しいです。拗音（きゃ、きゅ、きょ）、長音（おお、おう、ええ、えい）、拗音と長音の組み合わせ（ぎゅう、にゅう、しょう、ちょう）も難しいので、慣れるまで、フラッシュカードを使って、その音を含んだ言葉をスムーズに読めるように指導しましょう。仮名がスムーズに読めるようになったら、後追いで、書き方も教えてあげてください。練習シート（※８）を宿題にします。

※７：仮名がわかると色々なものが読めるようになり、楽しいです。ただ、会話を学ぶときには、音を聞いて耳で覚える訓練の妨げになるかもしれません。会話やパターン練習の時は、まずは耳で聞いて、ある程度理解してから、文字を見て確認させるようにしましょう。
※８：仮名や漢字の練習シートなどに文字を書かせる時には、口でぶつぶつと言いながら書くように指導しましょう。書くことが目的になって、何を書いているのか分からないままで書いている人も多いです。

＜カタカナについて＞
ひらがなを教えたら、次にカタカナを教えます。ひらがなと同じ手順で順番に教えます。一通

り教えたら、人名（イーゴリ、ナターシャ、アンナなど）や地名（ウクライナ、ロシア、フランスなど)、日本語になった外国語（ウオッカ、ワイン、イクラ、ボルシチなど）をどんどん読ませましょう。町中にはカタカナで書かれた看板等も多いので、歩きながらでも、カタカナを読む練習になります。レストランのメニューもカタカナで書かれた言葉が多いですよ。

＜ウクライナ人の名前の表記について＞

自分の名前のカタカナ表記は、初日に教えてあげましょう。学習者の名前を日本語らしく発音して、聞かせてあげましょう。原音の響きと違うので、驚くかもしれません。教師の発音を直そうとするかもしれませんが、日本語の音に慣れてもらいましょう。名前を聞かせたら、常に携帯できるように紙に書いて渡してあげましょう。(行く先々で重宝すると思います）ロシア語やウクライナ語の音は、日本語よりもずっと豊かなので、日本語の表記では表せない音がたくさんあります。原音を尊重しながらも、こだわりすぎずに、一般の日本人に分かりやすいもの、発音しやすいものにした方が、子供や高齢者にも名前を覚えてもらえると思います。

＜漢字について＞

ひらがな、カタカナを教えたら、漢字を教えていきます。漢字には、音読み、訓読みと幾つも読み方があるので、いつどのように読むのか、ウクライナの人には分かりにくいです。例えば、「小」という漢字は、小学生でも知っているやさしい漢字ですが、５つの異なった読み方があります。小学校（しょう)、小型（こ)、小川（お)、小さい（ちい)、小夜（さ)。漢字を勉強する時には、単体としての漢字ではなく、常に語彙として、または、文中で読みと意味を覚えさせるようにしましょう。漢字の書きの練習に関しては、本人の希望を聞いて、練習させるのがいいと思います。書きが苦手な人には強制せず、漢字の読みと意味に集中してもらった方がいい場合もあります。書くのは好きだけど、文字がきれいではない（基本的なストローク「止め・はね・はらい」が理解できていない。部首のバランスが悪い）人には、習字の時間を数回入れると、改善が見られます。

＜語彙の習得について＞

語彙、漢字語彙の習得は、日本語の上達に特に重要です。国立国語研究所の調査によると、英語の場合、使用頻度の高い上位 1000 語がわかると、一般的な書籍や放送を 80％程度理解することができるそうです。一方、日本語の場合、1000 語程度では、60％しか理解できないそうです。書籍やテレビ放送を理解するためには 10000 語程度の語彙量が必要だそうです。ですから、語彙は計画的に覚えるようにしましょう。テストがないと勉強できないというウクライナの学生も多かったですから、小テスト（※９）をしてもいいです。実施する際には、何をどう勉強したらいいか分かるように、小テストの形式をきちんと教えてあげましょう。

※９：絵を見せて、その言葉を言わせるでも、ロシア語／ウクライナ語を見せて、答えをローマ字で書かせるでもいいです。本人に小テストを作らせるという手もあります。

Q：会話はどうやっておしえたらいいですか。

A：はじめは、教師のまねから始まります。挨拶のような常套句は、意味を教えたら、教師のモデルを聞かせては、復唱（コーラス）させます。単なるおうむ返しにならないように、絵などを使って状況設定をします。例えば、「おはよう」を練習するときは、朝の太陽の絵（絵 Cue）を見せながら練習します。「こんにちは」「こんばんは」も同様に絵を用意して練習します。絵を見せては、言わせるをくり返して、定着するまで練習します。

また、物（レアリア；実物）を使って、言葉を引き出す練習もあります。例えば、教師から「どうぞ」と紙コップ（飲み物が入っていると仮定して）を渡して、「ありがとう」と言わせることができます。状況から、常識的に「ありがとう（スパシーバ）」の意味であることがわかります。その時に、学生のコップの持ち方が文化的に適切かどうかも気をつけましょう。このように絵 Cue やレアリアを使って状況を設定しては、言わせたい表現を引き出して練習します。演劇ごっこのような感じです。はじめは、こうした短いやり取りを繰り返したり、つなぎ合わせて、ちょっとした場面を演じる練習が中心になります。よくできたら、マラジェッツ（露：よくできました）と言って誉めてあげると、喜ぶと思います。

あいさつのような常套表現が終わったら、文法や文型に基づいた「パターン練習」をしていきます。例えば、「はじめて会った人に自己紹介をする」練習をするとします。例１のモデル会話にある「はじめまして」と「どうぞよろしくお願いします」は常套句ですから、状況や意味を確認したら、例２のように復唱させて練習します。復唱といっても、機械的にするのではなく、演じるように、笑顔やボディーランゲージにも注意を払います。うまくできたら、役を交換して、学習者から言わせるようにします。次に、「私はナターリヤです」という文を、例２に挟み込みたいです。この文には「私は〇〇です」という文型パターンが使われています。ですから、この文型パターンが使えるように、必要があれば、パターン練習をします。（例３）そして、口をついてスムーズに言えるようになったら、モデル会話に戻して、本当の名前を使いながら自己紹介が淀みなく言えるまで練習します。ここまで学習者に余裕があるようであれば、例４の下線のような「変化球」を学生に投げます。例のように「私は〇〇です」の否定形「私は〇〇じゃありません」を引き出すきっかけを作って、例５にあるようなパターン練習をして、また、モデル会話に戻して、自分の本当の名前を使いながら、ちょっとぼけも交えて、自己紹介を練習します。

例１）モデル会話

A さん：はじめまして。
B さん：はじめまして。
A さん：私はナターリヤです。
B さん：私は田中です。
A さん：どうぞよろしく。
B さん：こちらこそ、どうぞよろしく。

例２）

T：はじめまして。
S：はじめまして。
T：どうぞよろしく。
S：どうぞよろしく。

例３）

T：私はナターリヤです。
S：私はナターリヤです。
T：私はイーゴリです。
S：私はイーゴリです。
T：アンナ！
S：わたしはアンナです。
T：マリーナ！
S：わたしはマリーナです。
T：ターニャ！
T：わたしはターニャです。

例４）

T：はじめまして。
S：はじめまして。
T：わたしは田中です。（お名前は？）
S：私はナターリヤです。
T：（とぼけて）ターニャさんですか。
S：いいえ、ターニャじゃありません。
　わたしはナターリヤです。
T：すみません。どうぞよろしく。
S：こちらこそどうぞよろしく。

例５）

T：ターニャさんですか。
S：はい、ターニャです。
T：アンナさんですか。
S：いえ、アンナじゃありません。ターニャです
T：マリーナさんですか。
S：いえ、マリーナじゃありません。ターニャです。
T：ターニャさんですか。
S：はい、ターニャです。

このように、入門・初級レベルでは、復唱（コーラス）をさせたり、絵 Cue やレアリア、パターン練習、会話練習をくり返して、語彙や文法・文型パターンの習得を図りながら、生活に必要なことができるようにしていきます。ウクライナの人は、単調に思えますが、パターン練習のようなものが好きなようです。教科書によっては、こうした口頭練習の代わりに同じような会話文を繰り返し聞かせて、学習者が帰納的に学習することを狙った教科書もあります。国際交流基金が開発した『まるごと』という教科書は、たくさんのインプットを与えて自然に日本語が学べるように工夫されています。いずれにせよ、勉強したことが血肉となるまで、必要なことは何度もくり返して練習することが大切です。

また、会話練習の宿題として短い基本会話を暗記してもらうのもいいです。ウクライナの人たちは、学校で詩などを暗唱するそうですから、暗記することに抵抗がないようです。のりのりで暗唱してくれる人もいます。ペアで演技させてもいいです。ただし、暗記させることにした場合には、必ず見本の音声があるものを選んで、音を聞いてまねるように指導してください。

＜教える時に役立つロシア語＞

Повторите（パフタリーチェ）；くり返してください

Скажите（スカジーチェ）；言ってください

Еще раз（イッショーラス）；もういちど

Молодец（マラジェッツ）；すばらしい

Хорошо（ハラショー）；いいです

Понимаете?（パニマエチェ）；わかりましたか？

＜発音に関して＞

ウクライナの人が日本語を話す際に、「発音」に関しては大きな問題はありませんが、人によっては、母語の影響から強いなまり（一定の間隔で言葉を強く読む；ストレスアクセント）が残ることがあります。普段はそんなに目立たないのに、人前で大きな声で発表をさせたりすると、急に出てくることがあります。普段から日本語のリズムやイントネーション、ピッチアクセント（高低アクセント）を意識させる必要があります。ただ、歌の上手い人とあまり上手ではない人がいるように、急にはよくなりませんから、コミュニケーションの障害にならない程度なら合格としましょう。普段の練習方法としては、「シャドーイング」というやり方があります。これは、通訳者の訓練方法で、ニュース放送などを聞きながら、ほんの少し遅れて囁きながら復唱する練習方法です。会話を練習する時に、日本語のリズムやイントネーションを意識しながら、会話の音声をシャドーイングをすることで、アクセントやイントネーションの改善が見られます。

ウクライナの人にどのように日本語を教えるか、徒然なるままに、ウクライナでの経験を交えて紹介させていだだきました。具体的なやり方も書きましたが、心構えとか、こういうところには気をつけた方がいいというようなことも多くなりました。やさしい言葉でウクライナの人とのコミュニケーションを楽しんでください。伝わらないときは、絵を描いて見せたりジェスチャーを混ぜたりしてみてください。うまく教えられなかった日は、反省で凹むことも多いと思いますが、これを機会に日本語を教えることに興味を持ちましたら、市町村が運営する日本語教室や養成講座などの扉を叩いてみてください。新しい世界が広がると思います。

藤崎　泰典

国際交流基金日本語専門家として、2017 年 4 月から 2020 年 3 月にかけて、キーウ（キエフ）に所在するウクライナ日本センターに派遣